

令和4年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多 やや少 少 並	並 やや多 やや少 少 並
トマト	黄化葉巻病 コナジラミ類 ハモグリバエ類	並 並 少	並 並 少
レタス	灰色かび病 菌核病	やや少 やや少	やや少 やや少
たまねぎ	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類(注意報第5号) アザミウマ類	並 やや少 並 多 並	並 並 並 多 並
ブロッコリー	黒腐病 べと病 コナガ	並 並 少	並 並 少

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は18.2%(14.0%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は5.8%(2.9%)、発生圃場率は54.6%(36.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P152~157の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

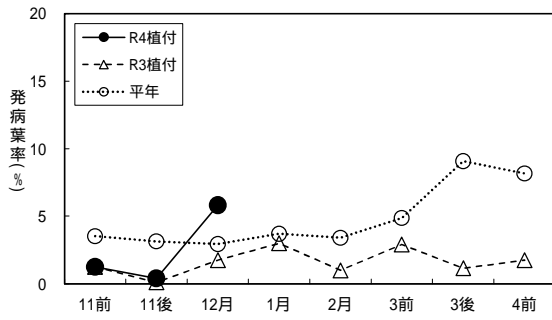


図 きゅうり うどんこ病 発病葉率の推移

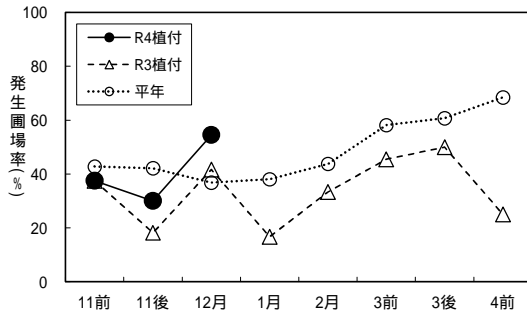


図 きゅうり うどんこ病 発生圃場率の推移

3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率1.1%)。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.6%、発生圃場率10.7%)。

5. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.7%(0.4%)、発生圃場率は27.3%(17.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス(CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス)を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P158～161の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(8筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は25.3%(8.7%)であった。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(8筆)の結果、寄生葉率は4.3%(1.2%)、発生圃場率は37.5%(37.4%)であった。一部多発圃場が認められた。

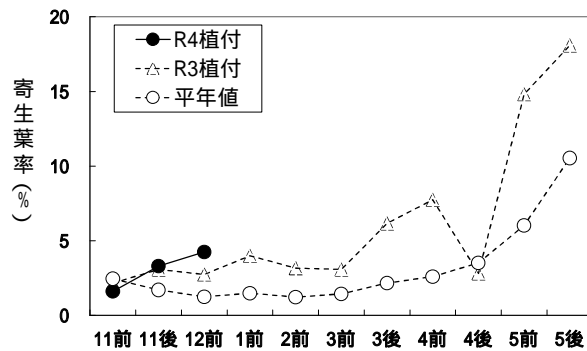


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率の推移

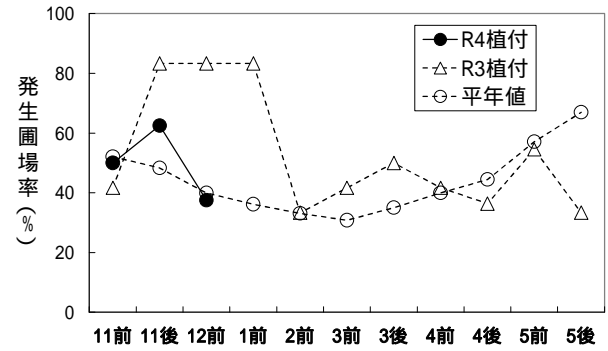


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。また、本虫は葉裏に多く寄生するので薬剤はかけむらがないよう丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P186～189の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。
- ウ 하우스内の雑草は本虫および黄化葉巻病病原ウイルスの発生源になるので除去する。発病株は見つけ次第ただちに抜き取り、施設外に持ち出し適切に処分する。
- エ マルハナバチの導入圃場では影響の少ない薬剤を使用する。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（8筆）の結果、発生を認めなかった（被害葉率0.1%、発生圃場率4.3%）。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.8%）。

2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（15筆）の結果、発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は6.7%（18.5%）であった。

たまねぎ

1. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は5.8%（4.5%）、発生圃場率は37.5%（32.7%）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)。また、果実での発生も認めなかった(発生を認めない)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 12月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率12.2%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少ない見込みであり、本病の発生に好適である。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.5%(1.6%)、発生圃場率は25.9%(17.8%)であった。

4. ハダニ類

令和4年12月15日付け**病害虫発生予察注意報第5号**による。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生花率は0.8%(過去7か年平均0.5%)、発生圃場率は18.5%(同17.8%)であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.8%(0.3%)、発生圃場率は16.7%(9.4%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均発病株率0.0%、発生圃場率1.7%)。

3. コナガ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.4%(5.4%)、発生圃場率は16.7%(45.1%)であった。

【参考】

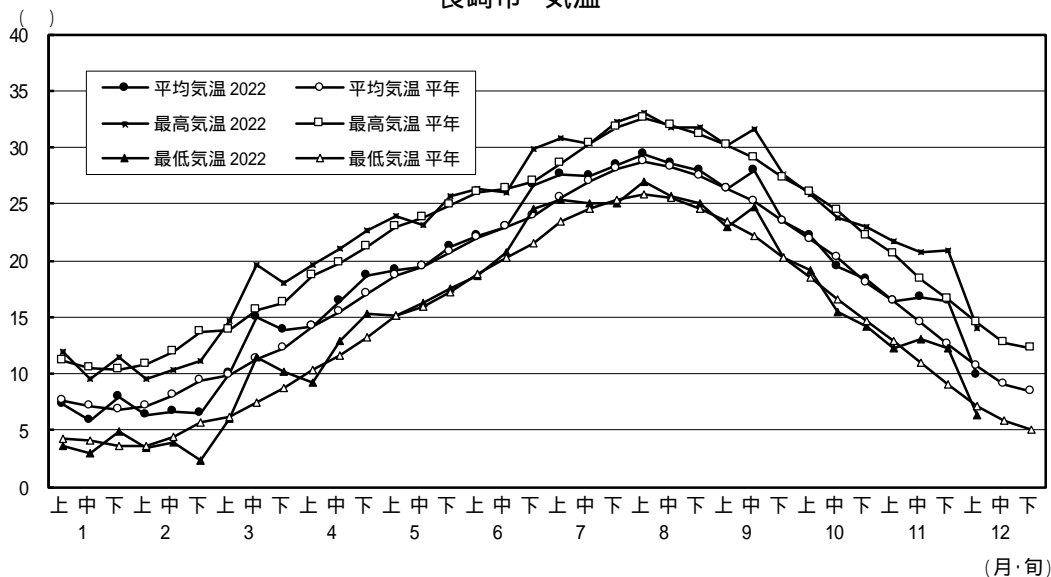
(令和4年12月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	60	30	10
降水量	30	30	40
日照時間	40	40	20

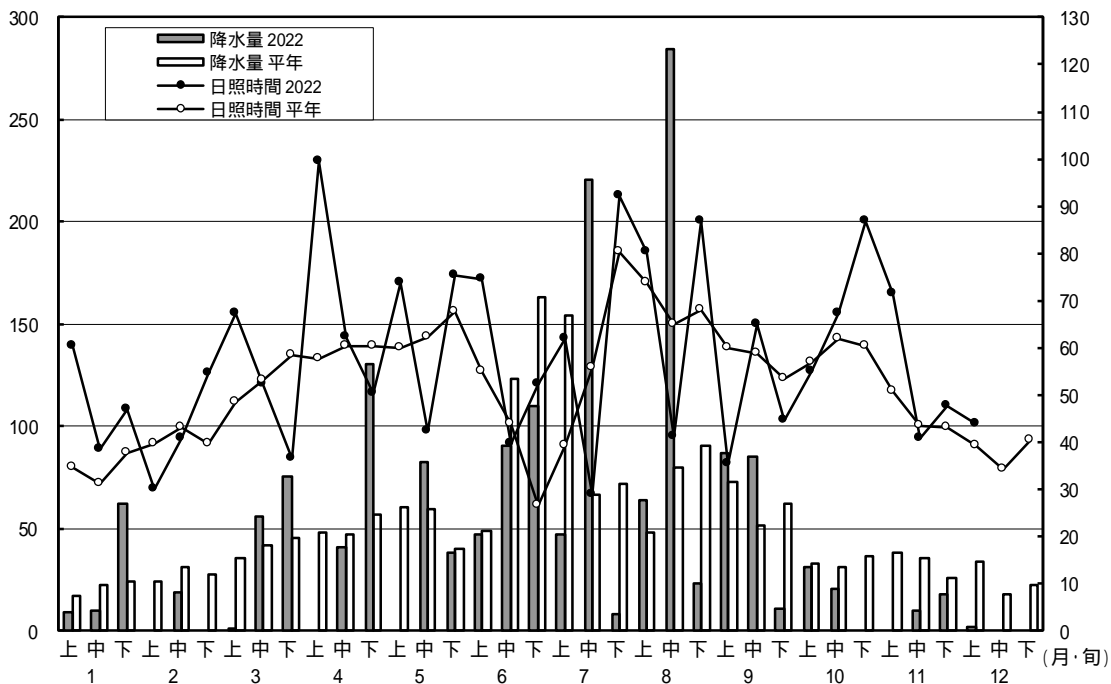
予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過(長崎地方气象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間 (mm) (hr)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) T E L : 0957-26-0027

